

機械器具 51 医療用嘴管及び体液誘導管  
管理医療機器 短期的使用口腔咽頭チューブ 42424022

## ラリゲルマスク

(滅菌品)

再使用禁止

### 【警告】

#### <使用方法>

- 医師もしくは医師の指示を受けた専門の医療従事者のみが本品を使用すること。
- カフへの空気注入前に、本品を固定及び保持しないこと。[本品は空気注入の際に、カフが膨らむことで、口腔外へ持ち上がり、マスク部が喉頭入口部を覆う最終的な留置位置に達する。空気注入前に固定、保持を行うと留置位置が深くなり、外傷又は不十分な換気の原因となるおそれがあるため。]
- 本品を呼吸回路等に接続する場合、使用前及び使用中に、閉塞や漏れが発生せず、確実に接続されていることを確認すること。
- 使用中は患者に異常が生じていないことを常に監視すること。
- 十分な深度で麻酔を行うこと。[不十分な麻酔は、咳嗽、発作性呼吸困難、呼吸痙攣を引き起こすおそれがあるため。]
- 本品には、逆流や誤嚥の影響から患者を守る機能はありません。
- マスクが常に正しい方向を向くように、確実にエアウェイチューブの黒い線の位置を上唇にあわせること。[適切な位置でない場合、換気ができなくなるため。]
- 本品を正しい位置に留置した後は、患者の顔にテープ等で確実に固定すること。使用中に留置位置がずれて、患者の気道が消失することがないように注意すること。[本品が緩んだり、正しく挿入されない場合、閉塞が起こるおそれがあります。]
- 患者の防御反射が回復して口頭による指示で自発的に開口できるようになるまで本品を抜去しないこと。麻酔から自発的に覚醒するまで患者に刺激を与えないこと。[気道内への分泌物の侵入や喉頭痙攣の原因となるため。]
- 本品を抜去する場合、カフの空気は必ず完全に脱気してから行うこと。[気管壁及び声帯を損傷するおそれがある。]

### 【禁忌・禁止】

- 再使用禁止。[本品は単回使用のため。]

#### <使用方法>

- 喉頭痙攣が発生した場合、本品を抜去しないこと。喉頭反射が十分にみとめられてから抜去すること。
- 本品の中には、エアウェイチューブにワイヤーが組み込まれている製品がある。ワイヤーが金属製のため、これらの製品を磁気共鳴画像診断装置(MRI)と併用しないこと。[挿管されているエアウェイチューブの位置が影響を受けたり、患者の気管等に障害を与える可能性がある。]
- カフを膨らますとき、空気以外のものを注入しないこと。[カフが破損した場合、充填分が肺に流入し感染のおそれがある。]
- 本品を抜去するとき以外は、カフ内を完全に脱気しないこと。[気道内への分泌物の侵入や喉頭痙攣の原因となるおそれがある。]
- 洗浄・滅菌しないこと。[製品に品質上の不具合が生じるおそれがある。]
- 使用期限が切れた製品は使用しないこと。[製品の品質が保たれていないおそれがある。]

#### <併用医療機器>

- レーザーや電気メスのメス先端電極の使用部位に近接して本品を使用しないこと。[特に高濃度酸素や亜酸化窒素の存在下で、急激な燃焼による熱傷や、塩化水素ガスなどをはじめとする腐食性および毒性のある燃焼ガスが発生するおそれがある。]
- 本品をジャクソンリース回路及びノーマンエルボー・タイプ(コネクタ内部にガス供給用内筒が患者方向に突出したもの)のコネクタに接続しないこと。[閉塞により呼気が吐けなくなる危険性があるため。]
- リドカインゼリーを潤滑剤として使用しないこと。[術後の合併症を増大させるおそれがある。]
- 本品には、噴霧式表面麻酔剤(リドカイン噴霧剤等)を直接噴霧しないこと。[製剤の添加物により、カフが破損(ピンホールの発生)するおそれがある。]
- 本品をコネクタ内部にガス供給用内筒があるものには接続しないこと。[回路が閉塞するおそれがある。]
- グデルエアウェイをバイトブロックとして使用しないこと。[本品の正しい位置決めのためとなり、外傷の危険性を増大し、シール効果を減少させるおそれがある。]

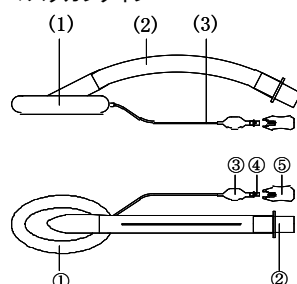
#### <適用対象>

- 下記の患者には使用しないこと。[胃内容物の逆流、嘔吐、誤嚥、肺吸入の危険性がある。]
  - ・非絶食または非絶食の疑いがある。胃内容物が残っている。
  - ・喉頭よりも中枢に気道閉塞の原因がある。
  - ・顔面に重度の外傷がある。
  - ・有害反射・マスク位置異常、気道粘膜・末梢神経の障害、誤嚥
  - ・上部消化管疾患
  - ・病的肥満
  - ・妊婦(14週以上)
  - ・腸閉塞
  - ・声帯以下に気道閉塞がある。
  - ・開口制限、上気道の異常(腫瘍、膿瘍、奇形、外傷)で挿管困難が予想される。
  - ・上部消化管手術、腸膜牽引手術、腹腔内圧を増加させる手術操作、トレンデレンブルグ体位を行う場合
  - ・次のような陽圧換気で高い気道内圧が必要な症例の場合
    - ・肺や胸郭コンプライアンスの低下
    - ・高い気道抵抗(喘息)
    - ・胸腔内手術
    - ・横隔膜を圧迫するような手術

### 【形状・構造及び原理等】

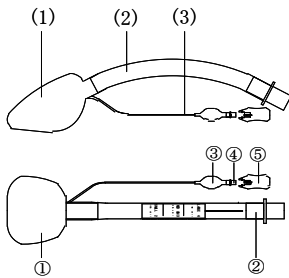
#### <構造図(代表図)>

##### ・マスクカフタイプ



- (1) カフ
- (2) エアウェイチューブ
- (3) インフレーターチューブ
- ① カフ
- ② コネクタ
- ③ パイロットバルーン
- ④ パルプ
- ⑤ タブ

## ・カフタイプ



- (1) カフ  
 (2) エアウェイチューブ  
 (3) インフレーションチューブ  
 ① カフ  
 ② コネクタ  
 ③ パイロットバルーン  
 ④ バルブ  
 ⑤ タブ

### (1) 形状

- ・患者の体重に応じてサイズがあります。
- ・本品の中には、エアウェイチューブに金属製のワイヤーが組み込まれている製品があります。

### (2) 原理

口腔から挿入した本品で喉頭を覆い、そのカフで喉頭をシールすることで、気管の換気を行うことができます。

### (3) 原材料

本品のエアウェイチューブには、次の原材料を使用しています。

- ・ポリ塩化ビニル樹脂
- ・シリコーンゴム

### (4) 滅菌方法

本品はエチレンオキサイドガス滅菌済みです。

## 【使用目的、効能又は効果】

短期的使用を目的として、ガス交換又は吸引時に気道の開存性を維持するために口腔から挿入するために用いる。本品は、舌による気流遮断の防止に有用である。

## 【品目仕様等】

### (1) コネクタとの接続性

エアウェイチューブコネクタの外径は15mmコネクタの外径はISO5356-1に適合する15mm雌円すいコネクタに接続できること。

### (2) インフレーションチューブの接続性

ISO594-1に準拠したルアーテーパのある雄円すいと接続できること。

## 【操作方法又は使用方法等】

### 1. マスクカフタイプ

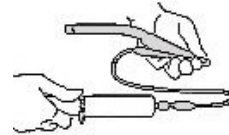
#### <使用前の確認>

- (1) 患者の体重に応じて、別表を目安に、適切なサイズの製品を選択する。
- (2) 汚染に十分に注意し、包装内から製品を取り出す。
- (3) 性能試験(使用前確認)  
 本品を使用する前に、必ず次の点を確認する。
  - ・エアウェイチューブの長さ。
  - ・エアウェイチューブ内腔が閉塞していないこと。
  - ・製品の表面・内腔に異物、変色、キズ、損傷がないこと。
  - ・コネクタ部とエアウェイチューブがしっかりと固定されていること。
  - ・エアウェイチューブの両端を持ち、180° またはそれ以上の角度で曲げ、キンクしないことを確認する。
  - ・タブをインフレーションチューブから取り外し、注射器でカフ内を脱気させた後、再度カフ内に空気を注入し、製品に空気漏れや片膨れ等の損傷がないこと。カフ内へ注入する空気量は別表を目安に選択する。
- (4) 使用前の確認で、異常がみとめられた場合は、使用せずにすみやかに廃棄し、新しい製品に取り替える。

#### <挿入>

##### (1) カフの脱気

- ① 注射器をインフレーションチューブのバルブ部にしっかりと接続する。
- ② 指でカフを押さえながら、注射器を引いてカフ内の空気を完全に抜く。



- ③ 注射器のプランジャーを引いたまま、注射器を取り外す。
- ④ カフの縁が逆向きになっていないこと、カフ内が完全に脱気されていることを確認する。

(2) カフの背面全体に滅菌済み水溶性潤滑剤を塗布する。

(3) 十分な深度の麻酔をかける。

##### (4) 挿入

標準的な挿入法に準じて本品の挿入を行って下さい。以下に記載するのは、推奨の挿入方法です。医師の判断の下、最適な挿入法を選択して下さい。

① 頭部と頸部を挿管に適した体位にする。片手で口の中にカフを挿入している間、もう片方の手で後頭部を押し、頸部を前屈し、頭部を後屈した状態を維持する。

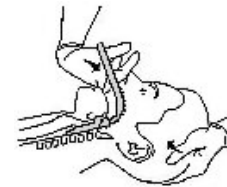
② カフとエアウェイチューブの接続部を人差し指でペンと同じように持つ。



③ 硬口蓋に寄せて先端を押し上げ、口蓋に対して平らになるようにし、先端が折り重ならないことを確認してから、本品を口腔へ挿入する。

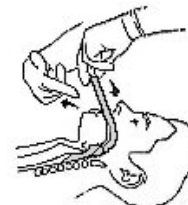


④ カフ全体を口蓋に密着させる。人差し指でカフを硬口蓋に押し付けながら、本品を咽頭へ挿入する。



⑤ カフを下方に移動しながら、喉頭蓋への衝突を避けるために、人差し指でカフを後咽頭壁に押し付けながら本品を食道へ挿入する。口内に人差し指を十分に挿入する。

- ・他の指は口外のままにすること。
- ・挿入を進めているとき、しっかりと口蓋との接触を保ちながら、人差し指全体の屈筋表面がエアウェイチューブに沿わせること。



⑥ マスクが完全に挿入され、人差し指が完全に口内に入ったあとは、抵抗を感じるまで本品を押し込む。

⑦ 抵抗を感じた場合、口から人差し指を引き抜く。引き抜くときには、もう一方の手で本品が抜けないようにエアウェイチューブを押さえておく。

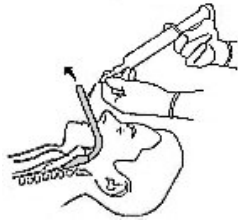
##### (5) 固定

カフを膨らませるまではエアウェイチューブは固定しないこと。

① 本品が適正な位置になるように、エアウェイチューブの黒い線が鼻側を向いていることを確認する。

② カフに空気を注入する。

- ・カフは少量から注入し、徐々に追加する。効果的に密閉できる、必要最低限の量の空気をカフに注入すること。カフ内圧は最大でも60cmH<sub>2</sub>Oを超えないようにすること。



- ③ 本品が外れたり、位置がずれたりしないようにエアウェイチューブを保持しながら、本品を呼吸回路に接続する。
- ④ 肺をやさしく膨らまし、正しい位置にあることを確認する。
- ⑤ バイトブロックを挿入し、エアウェイチューブをテープで固定する。

<気道の確保>

- (1) 患者の意識が戻るまで、本品とバイトブロックを留置する。
  - ・本品を正しい位置で固定し、緩んだり、動いたりしないよう、絶えず監視すること。
- (2) 定期的に分分泌物の吸引を行い、患者の気道を確保する。
  - ・エアウェイチューブが閉塞していないか絶えず監視すること。
- (3) 注射器でカフ内の空気を調節し、一定の内圧を維持する。
  - ・カフ内圧を絶えず監視すること。
  - ・カフ内圧は最大でも60cmH<sub>2</sub>Oを超えないようにすること。

<抜去>

- (1) 患者の防御反射が回復し、患者が口頭による指示で自発的に開口できるようになったことを確認する。
- (2) カフの空気を完全に脱気し、本品を抜去する。
- (3) 使用後の処理
  - 感染防止に留意し、各施設の基準に従い安全な方法で廃棄する。

2. カフタイプ

<使用前の確認>

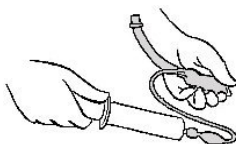
- (1) 汚染に十分に注意し、包装内から製品を取り出す。
- (2) 性能試験(使用前確認)
  - 本品を使用する前に、必ず次の点を確認する。
    - ・エアウェイチューブの長さ。
    - ・製品の表面・内腔に閉塞や異物、変色、キズ、損傷がないこと。
    - ・コネクタ部とエアウェイチューブがしっかりと固定されていること。
    - ・エアウェイチューブの両端を持ち、180° またはそれ以上の角度で曲げ、キंकしないことを確認する。
    - ・タブをインフレーションチューブから取り外し、注射器でカフ内を脱気させた後、再度カフ内に空気を注入し、製品に空気漏れや片膨れ等の損傷がないこと。カフ内へ注入する空気量は別表を目安に選択する。
- (3) 使用前の確認で、異常がみとめられた場合は、使用せずにすみやかに廃棄し、新しい製品に取り替える。

<挿入>

本品の挿入は標準的な挿入法に従って行うこと。

(1) カフの脱気

- ① 注射器をインフレーションチューブのバルブ部にしっかりと接続する。
- ② 指でカフを押さえながら、注射器を引いてカフ内の空気を完全に抜く。
- ③ 注射器のプランジャーを引いたまま、注射器を取り外す。
- ④ カフ内が完全に脱気されていることを確認する。

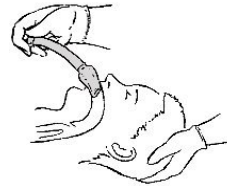


- (2) カフの背面全体に潤滑剤を塗布する。

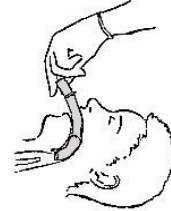
(3) 十分な深度の麻酔をかける。

(4) 挿入

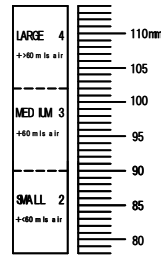
- ① 頭部と頸部を挿管に適した体位にする。片方の手で後頭部を押し、頸部を前屈し、頭部を後屈する。もう片方の手で顎を上の方に持ち上げる。枕の使用を推奨します。下顎を押し下げると、自然に口が開くようにする。
- ② 唇を低い位置に動かし、開いた口の中に、本品を軽く挿入する。



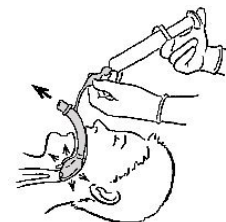
- ③ カフ全体を口蓋に密着させる。人差し指でカフを硬口蓋に押し付けながら、本品を咽頭へ挿入する。



- ④ 患者のサイズにより、本品に印字された目盛を使用しながら適切な深さまで本品を挿入する。



- ⑤ 喉頭蓋の先端部後方に本品の先端を通すため、挿入時、本製品の先端は中咽頭内の後方に保持する。
  - ・本品の挿入の際に、抵抗を感じた場合、本品の先端が喉頭蓋上部のくぼみに入っているおそれがある。本品を除去し、再挿入するか、または、本品を少し引き戻してくぼみの周りや喉頭蓋の下の方に進めること。
- ⑥ エアウェイチューブの凸面の中央線が上唇に面し、カフを膨らます前に中心にあることを確認する。こうするとカフを膨らませたときに、本品が正しい場所に位置する。
- ⑦ 60mLシリンジを使用し、低圧でシールしながらカフを膨らませる。
  - ・膨らませ過ぎないこと。最大膨張量80mLを超えないこと。
  - ・カフ内の圧は40mmHg(57cmH<sub>2</sub>O)を維持すること。



- ・カフは少量から注入し、徐々に追加する。効果的に密閉できる、必要最低限の量の空気をカフに注入すること。
- ・患者に最も合う大きさになるように適切な量の空気を注入すること。別表を目安とすること。

- ⑧ ガス供給装置に接続する。
  - ・本品に接続するときに、呼吸回路がねじれたり、本品が動いたりしないように注意すること。
  - ・聴診器またはカブノグラフ等を使用してガス交換が十分であることを確認すること。

<気道の確保>

- (1) 患者の意識が戻るまで、本品とバイトブロックを留置する。

- ・本品を正しい位置で固定し、緩んだり、動いたりしないよう、絶えず監視すること。
- (2) 定期的に分泌物の吸引を行い、患者の気道を確保する。
    - ・エアウェイチューブが閉塞していないか絶えず監視すること。
  - (3) 注射器でカフ内の空気を調節し、一定の内圧を維持する。
    - ・カフ内圧を絶えず監視すること。

#### < 抜去 >

- (1) 患者の防御反射が回復し、患者が口頭による指示で自発的に開口できるようになったことを確認する。
- (2) カフの空気を完全に脱気し、本品を抜去する。
- (3) 使用後の処理
  - 感染防止に留意し、各施設の基準に従い安全な方法で廃棄する。

### 【使用上の注意】

#### (1) 重要な基本的注意

- ・本品を使用する前に、添付文書を読むこと。
- ・本品に添付されている英文の取扱説明書は使用しないこと。[誤使用を招くおそれがあるため。]
- ・本品と併用する医療機器や医薬品に付属する添付文書や取扱説明書を参照すること。
- ・予備の製品を準備すること。[不具合や選択したサイズが合っていない場合、に備えるため。]
- ・製品を取り扱う際には必ず手袋を着用すること。[汚染を最小限に抑えるため。]
- ・製品や包装に破損等の異常がみとめられる場合には使用しないこと。
- ・包装を開封したらすぐに使用すること。
- ・包装を開封後、すぐに使用しなかった場合は、使用せずそのまま廃棄すること。
- ・カフの正面には潤滑剤を塗布しないこと。[潤滑剤の吸引を引き起こすおそれがある。]
- ・潤滑剤を塗布する場合は、潤滑剤がエアウェイチューブ内腔に入らないように注意すること。[潤滑剤によってエアウェイチューブ内腔が塞がり、患者の換気が妨げられおそれがある。]
- ・潤滑剤は挿入直前に塗布すること。[乾燥を防ぐため。]
- ・水溶性の潤滑剤を使用すること。
- ・嘔吐や咳嗽及び喉頭痙攣等の舌咽喉頭反射を抑制する深度の麻酔を投与すること。
- ・麻酔時、カフ内圧の上昇や減少に注意すること。[亜酸化窒素がカフを透過し、カフ内圧を変動させる可能性があるため。]
- ・本品の挿入は標準的な挿入法に従って行うこと。
- ・本品を挿入するときは、カフとエアウェイチューブの接続部に人差し指の先を当てるようにして持つこと。[カフから遠い位置で持つと、挿入時にカフを硬口蓋や咽頭後壁に十分に押しつけることができないおそれがある。]
- ・カフが折れ曲がらないこと。[挿入が困難になるおそれがある。]
- ・挿入途中でカフが進まず、抵抗を感じた場合は、無理に押し込まず少しカフを引き戻すこと。また、咽頭の中で本品を上下に動かしたり、何度も挿入を繰り返したりしないこと。
- ・本品を力任せに挿入しないこと。[誤留置や外傷を避けるため。]
- ・本品を深く押し込み過ぎたり、下手な挿入をしした場合、首を聴診して確認し、本品をほんの少し引き抜いて正しい位置に直すこと。うまく直せない場合は、本品の除去・再挿入、または喉頭鏡を使用して喉頭蓋を持ち上げること。[喉頭蓋が押し下がってしまうおそれがあるため。]
- ・挿入後に器具又は体内突起物(歯等)によってカフ及びインフレーションチューブが損傷していないことを確認すること。
- ・カフへの空気の注入には清潔な器具を使用し、パイロットバルーンのパルプが汚れないよう注意すること。また、注入後は使用した器具をパルプの接続部からすみやかに取り外すこと。
- ・空気の注入又は脱気には、標準ルーアーテーパーを持つ注射器のみを使用すること。

- ・本品の挿入時や留置時、カフの内圧を常に確認すること。
- ・麻酔中にカフから空気が抜けるおそれがあるので、常にカフ内の圧力を一定に維持するか、空気漏れを防ぐために空気を追加すること。
- ・カフの内圧の確認はカフ圧計で行うこと。
- ・カフの内圧を上昇させないこと。[カフ内側の膨張により、換気障害となるおそれがある。粘膜や神経を圧迫し、咽頭痛や神経障害の原因となるおそれがある。また、本品の位置ずれにより、咽頭や喉頭との隙間が増え、密閉性が低下するおそれがある。]
- ・カフを膨らませるまでエアウェイチューブは固定しないこと。
- ・エアウェイチューブを固定する場合、必ずエアウェイチューブの最末端が尾側を向いていることを確認すること。
- ・本品の留置にはバイトブロックを使用すること。また、本品を抜去するまでバイトブロックを取り外さないこと。[患者がエアウェイチューブを噛み、閉塞する原因となるため。]
- ・本品のコネクタにはISO5356-1に適合した15mmメス円すいコネクタを有する呼吸回路と接続すること。
- ・インフレーションチューブ又はパイロットバルーンに対して引っ張る等の過剰な力を加えないこと。[インフレーションチューブの故障又はリークの原因となる危険性がある。]
- ・鋭利なものにカフが触れないように注意すること。[カフの損傷を避けるため。]
- ・カフが損傷した場合は、直ちに新品に交換すること。
- ・麻酔又は外科手術中、患者を動かしたり、本品の留置位置を動かさないこと。[患者の気道に刺激を与えないようにするため。]
- ・本品は気管挿管が必要な患者に使用しないこと。[嘔吐や誤嚥から気道を保護する機能を持っていないため。]
- ・完全に分泌物を除去する必要がある場合は、空気を完全に抜かず、カフ内に適量の空気を残したまま抜去することもできる。

#### (2) 相互作用

- ・本品の中には、エアウェイチューブにワイヤーが組み込まれている製品がある。ワイヤーが金属製のため、これらの製品を磁気共鳴画像診断装置(MRI)と併用しないこと。[挿管されているエアウェイチューブの位置が影響を受けたり、患者の気管等に障害を与える可能性があるため。]
- ・MRIでの使用の可否は別表を参照すること。
- ・呼吸回路をエアウェイチューブのコネクタに接続時及び接続後、直線的又は回転的な過剰な力がかからないように注意すること。[偶発的に呼吸回路との接続が外れたり、エアウェイチューブ又は呼吸回路の閉塞、エアウェイチューブの気道からの逸脱等のおそれがある。]
- ・呼吸回路との接続時及び使用中、回路との接続が適切であることを確認すること。また、各接続部でリーク等がないことを確認すること。
- ・併用する機器の安全装置の作動を確認すること。[マスクカフやインフレーションチューブが損傷するおそれがある。]

#### (3) 不具合

- ・マスクカフのリーク、バルブ・エアウェイチューブのコネクタの破損、インフレーションチューブのキンク

#### (4) 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

- ・本品を小児患者に使用する際、グデルエアウェイの挿入方法のように180°回転させる挿入方法を行わないこと。[外傷を与える原因となるため。]
- ・喉頭痙攣は小児(3歳未満)患者への麻酔導入、維持、麻酔からの覚醒の際に発生しやすい。特に麻酔深度が十分でない状態で本品を抜去すると、喉頭痙攣が起きやすいため注意すること。
- ・新生児、幼児、小児に本品を使用する際は、成人用ラリゲルマスクを使用した経験があり、小児麻酔の経験のある専門の医療従事者が使用すること。[新生児、幼児、小児患者は不十分な換気時に、高酸素消費により急激に酸素飽和度が低下するため。]
- ・新生児、幼児、小児患者に本品を使用する際には、カブノグラフ等を使用して、患者の生体情報を常に観察すること。
- ・本品の小児サイズを使用する際には、パイロットバルーンに対して偶発的に外圧が掛からないようにすること。[カフ内圧が上昇して外傷やカフの位置ずれの原因となるため。]

- ・小児患者に陽圧換気を行う際には、胃の膨張を避けるように十分注意すること。

**(5) その他の注意事項**

- ・使用後は感染防止に留意し、各施設の基準に適合した安全な方法で処分すること。

**【貯蔵・保管方法及び使用期間等】**

＜貯蔵・保管方法＞

- ・水漏れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。
- ・医療従事者以外の方の手に触れない場所に保管すること。
- ・保管・運搬時は、過度な振動・衝撃等に注意すること。
- ・化学薬品の保管場所やガスの発生する場所を避けて保管すること。

＜使用期限＞

- ・本品の包装に記載してある使用期限を必ず守ること。[自己認証(当社データ)により設定。]

**【包装】**

- ・5個/箱、10個/箱 [製品毎の外箱表示を参照。]
- ・1個 (臨床試用医療機器)

**【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】**

＜製造販売業者(問合せ先)＞

- ・名称: 株式会社パルメディカル
- ・住所: 東京都千代田区岩本町3丁目9番17号
- ・TEL: 03-5821-0607
- http://www.palmedical.co.jp/

＜製造業者＞

- ・名称: Three Lions Limited (スリーライオンズリミテッド)
- ・所在地: 中華人民共和国

-記号の説明-

記号	定義
	品番(型式)
	ロット番号
	使用期限
	再使用禁止(単回使用)
	サイズ
	サイズの目安(患者の体重)
	カフ最大注入量
	エチレンオキサイドガス滅菌済み
	使用前に添付文書を読むこと
	注意
	可塑剤にDEHPを使用していません
	天然ゴムは使用していません (ラテックスフリー)
	CEマーク

別表

(1) マスクカフタイプ

規格	サイズ	サイズの目安		カフ空気注入量(mL)		カフ内圧 (cmH <sub>2</sub> O) (hPa)	使用 回数
		患者体重 (kg)	患者	最大	事前 確認		
シングルユース	1	<5	新生児	4	6	60	1回
	1.5	5~10	新生児/幼児	7	10		
	2	10~20	幼児	10	15		
	2.5	20~30	幼児/小児	14	21		
	3	30~50	小児(大)/成人(小)	20	30		
	4	50~70	成人	30	45		
シングルユース (フレキシブル)	1	<5	新生児	4	6	60	1回
	1.5	5~10	新生児/幼児	7	10		
	2	10~20	幼児	10	15		
	2.5	20~30	幼児/小児	14	21		
	3	30~50	小児(大)/成人(小)	20	30		
	4	50~70	成人	30	45		
5	70~100	成人	40	60			

(2) カフタイプ

規格	サイズ	サイズの目安		カフ空気注入量(mL)		最大空気 注入圧 (mmHg)	使用 回数
		患者体重 (kg)	患者	最大	事前 確認		
シングルユース (カフタイプ)	—	40-60	小児(大)/成人女性(小)	<60	80	40	1回
		60-80	成人女性(大)/成人男性(小)	60			
		80-100	成人男性(大)	>60			
		> 100	成人(特大)	>70			